

遠隔ヘルス Position Statement on Telehealth 2014

目的と定義についての概説

この文書の目的は、作業療法サービスの提供における遠隔ヘルス(telehealth)の利用について、世界作業療法士連盟(WFOT)のポジションを述べることである。

遠隔ヘルスは、提供者とクライアントが異なる物理的場所にいるときに、健康関連サービスの提供のために情報とコミュニケーションテクノロジー(ICT)を活用することである。このリモートサービス提供モデルを説明するために様々な用語が使われている。遠隔ヘルスという用語が、健康担当課や政策決定者により使われる言葉として最適であり、作業療法実践の全体(健康増進、ハビリテーション、リハビリテーションなど)を説明するのに適している。このサービス提供モデルを説明するために使われるその他の用語には、遠隔作業療法(tele-occupational therapy)、遠隔リハビリテーション、遠隔療法、遠隔ケア、遠隔医療、遠隔実践などがある。WFOTは、作業療法を「クライアント中心の健康専門職で作業を通して検討と幸福を促進することに関心をもつ」(p.3)と定義している¹。この定義のおかげで、作業療法士はどこで実践するかといった状況に関わらず健康を促進する。

「遠隔ヘルス」という用語は、セラピストとクライアントの同時的(リアルタイム)交流を意味する(ビデオ会議、リモートモニタリング、アプリやゲーム技術を使ったバーチャル交流など)。また、同時ではない(「蓄積転送」など)データ通信(ビデオ、写真、電子メールなど)も意味する。遠隔ヘルスは、人と人との交流と遠隔ヘルス双方を使ったハイブリッドなサービス提供モデルの一部として選択される場合もあるかもしれない。遠隔ヘルスは、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーにより受け入れられるものとして、評価、介入、モニタリング、スーパービジョン、コンサルテーション(遠方にいるセラピスト、クライアント、地方のヘルスケア提供者の間での)のために使われる。

ポジションについての声明

作業療法を世界的に発展させるという WFOT の使命は、地方の文化、資源、作業のために概念化されたサービスにアクセスするという前提条件をもつ。WFOT は次のことを主張する。

遠隔ヘルス経路で提供された作業療法サービスは、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーにより受け入れられる対人で提供されたケアと同等の標準に見合うものでなければならない。

作業療法サービスは理想的には、地方でトレーニングされ文化的に有能な作業療法士によって提供される。国際連合の障害者の権利条約²が主張するように、「ハビリテーション及びリハビリテーションについての包括的なサービス及びプログラムを企画し、強化し、及び拡張」し、こうしたサービスやプログラムは「障害者自身が属する地域社会(農村を含む)の可能な限り近くにおいて利用可能」なものとする(第26条-ハビリテーション及びリハビリテーション)。遠隔ヘルスは、離れたスペシャリストから地方のヘルスケア提供者へ、コンサルテーションと関係のモニタリングを通して、知識と技能の移転により、クライアントの地域内でサービスへのアクセスを改善し、「ハビリテーション及びリハビリテーションについての包括的なサービスの強化と拡張」をするかもしれない。

遠隔ヘルスは、対人サービスが不可能であったり、実際的でなかったり最適でないとき、遠隔ヘルスがクライアントと提供者双方が受け入れているとき、作業療法サービスのための適切な配給モデルとなる。遠隔ヘルスは対人でクライアントに作業療法サービスを提供する中でのハイブリッドモデルの一部となったり、作業療法サービス中のいくつかが遠方で提供されたりすることもある。

遠隔ヘルスでの作業療法サービスは、サービスを受ける個人、集団、文化にとって適切で、作業やクライアントの関心事に沿っていなければならない。

遠隔ヘルスのコンピテンシーやガイドラインは、作業療法士、教育者、会員協会、その他社会の関連する人々の協働によって定義されるべきである。

社会にとってのポジションの重要性についての声明

遠隔ヘルスは、情報とコミュニケーションテクノロジーを通して作業療法士とクライアントをつなげるので、人と人が会うことが不可能であったり実際的でなかったりするときに、サービスを受けられない人々のためのサービスアクセスを改善する。遠隔ヘルスは、地方の提供者の教育のギャップを埋めるし、作業療法士の不足に対して貢献する。

世界保健機関と世界銀行が共同で発表した障害に関する世界のワールドレポートでは、リハビリテーションサービスの提供のための遠隔ヘルスの有効性が記され、「従来の介入と比較したときに、同等あるいはそれ以上の臨床的成果を導く」(p.119)³と述べられている。この報告書に引用されている研究は、遠

隔ヘルスは対人で提供されるリハビリテーションサービスと同等の成果を報告している。遠隔ヘルスのテクノロジーには、ヘルスケア提供者のトレーニングやサポートを促進することも含まれ、「国家間の専門的熟練技能の共有が、災害後のような厳しい時と同様にできる」(p.119)ということもある。

チャレンジとストラテジー

WFOT は、作業療法によって使われる遠隔ヘルスは、WFOT の倫理綱領に沿い、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーに沿うべきであると主張する。重要な考慮点には次のものが含まれる。

- 免許と登録 –セラピストは、専門職の免許や登録の必要事項に従う。WFOT の文書、他国での作業療法士として働くこと⁵は、WFOT 会員協会の大多数における登録、実践、会員となるための必要事項の概要を示している。
- 地方の作業療法士との協働 –遠隔ヘルス提供者は、一貫性があり関連深く継続可能なサービスという利点のために、地方の作業療法提供者や組織や教育機関を育てたり、一緒に協働したりする機会を探ることが奨励される。
- クライアントの選択 –セラピストは個々のクライアントの状況(クライアントの診断名や機能障害、提供される作業療法介入の性質など)に基づいて遠隔ヘルスの適切性を判断するためにクリニカルリレーズニングを使うべきである。遠隔ヘルスは、クライアント特有のニーズが示された際に対人サービスを避けるために使われるべきではないし、差別的な理由でセラピストがクライアントに接することを避けるために使われるものではない。(WFOT の文書、作業療法におけるクライアント中心⁶を参照)
- 治療の同意 –セラピストはクライアントに提供される作業療法サービスの性質、リスク、効果、代替治療法の選択肢、プライバシーや安全性保護の限界、テクノロジーとの関連での個人情報保護についての情報を提供する。
- 専門的信用の保障 –作業療法士は専門的信用保証を維持するための管轄区域、施設、専門職としての必要事項を守るべきである。作業療法士は、サービス提供する地理的領域が専門職としての信用報償の範囲内であることを確認すべきである。
- 秘密保持 –遠隔ヘルスの利用者は、管轄区域、施設、作業療法実践を監督する専門的基準やポリシーに沿って、クライアントのデータを同時的及び蓄積して扱うときに個人情報を保護する。
- 個人的及び文化的特質 –セラピストは WFOT の文書、多様性と文化のガイドライン⁷、多様性と文化の声明書⁸に記載されている原則に従うべきである。
- 提供者のコンピテンシーとケアの標準 –セラピストは専門職コンピテンシーを維持し、遠隔ヘルスのテクノロジーを使うコンピテンシーを獲得し、クライアントの安全を確保し、実践の倫理原則を守らなければならない。
- 報酬、支払者のガイドライン –セラピストは遠隔ヘルスで提供されるサービスを正確に行い、報酬を得るための必要事項を順守しなければならない。
- 正真正銘の作業療法実践 –WFOT はクライアント中心、作業中心の実践を認め、それがこの専門職の広さを描き出す。

結論

遠隔ヘルスは作業療法のための適切なサービスモデルとなりうる。そして作業療法サービスへのアクセスを改善するかもしれない。

WFOT 会議で 2014 年に承認された。

文献

1. World Federation of Occupational Therapists. (2013). Definitions of occupational therapy from member organisations (revised 2013 October). Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
2. United Nations. (2006). Convention on the rights of persons with disabilities. Retrieved from <http://www.un.org/disabilities/convention/conventionfull.shtml> 外務省:障害者の権利に関する条約 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html

<https://www.wfot.org/resources/telehealth> (2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

3. World Health Organization & World Bank. (2011). World report on disability. Retrieved from http://whqlibdoc.who.int/publications/2011/9789240685215_emg.pdf
4. World Federation of Occupational Therapists. (2005). Code of Ethics (revised 2005). Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
5. World Federation of Occupational Therapists. (2013). Working as an occupational therapist in another country. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
6. World Federation of Occupational Therapists. (2010). Client-centredness in occupational therapy. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>
7. World Federation of Occupational Therapists. (2009). Guiding principle on diversity and culture. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.tabid/132/did/306/Default.aspx>
8. World Federation of Occupational Therapists. (2010). Diversity and Culture. Retrieved from <http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>